

平成 25 年度第 1 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 25 年 5 月 31 日 (金) 10:00~11:30

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

・橋本 和英委員 (市小学校長会)	・伊東 明彦委員 (宇都宮大学)
・高田 芳紀委員 (市中学校長会)	・沼尾 順市委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会)
・馬上 剛委員 (市PTA連合会)	・天谷 文夫委員 (県林業センター)
・矢野 篤委員 (市子ども会連合会)	・坂内 剛至委員 (ネイチャープラネット代表)
・森山 公子委員 (市ボーイスクウト・ガールスカウト連絡協議会)	・入江 尚見委員 (公募)
・相田美智子委員 (市レクリエーション協会)	・芥川 一男委員 (公募)
・村上 敬吾委員 (県キャンプ協会)	

(事務局) 山口 達雄課長補佐 坂野 忠所長 黒須 正宏副所長 駒野 拓也指導主事
佐藤 洋美指導主事

○欠席者氏名

なし

○公開 (傍聴者の数 0人)

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議 題

(1) 報告事項

① 平成 24 年度事業報告について (ア学校受入事業, イ主催事業, ウ一般受け入れ事業)

事務局 : (資料にそって説明)

入江委員 : あずま屋までの斜面に植えた木は, どのような木か。

事務局 : 全て実のなるものを植えた。

所長 : カキ, クルミ, ユズ, グミ, ラズベリー, ブルーベリー, スモモ。今は, ウグイスカズラがなっている。五感を使って自然を感じられるものを植えた。

事務局 : およそ 50 本植えた。

入江委員 : なかなか食べられる木はない。楽しみだ。

会長 : それは, 今後自由に採って食べていいのか。

事務局 : 基本的に教材用として植えたものである。

芥川委員 : 食べられる木の実物を見られるというのがよい。いろいろな種類の木がまとめて植えてあるのもよい。

坂内委員 : 教育的効果の結果について, 保護者は見ることができるのか。保護者が結果を目で確認できると, もっと自然体験活動をさせたいという思いをもった保護者が増え, われわれ民間で活動しているところにも賛同してもらえるのではないかと思う。

会長 : 調査した結果をどのように公表するか。またどのように生かしていくかということか?

事務局 : この結果については, 今回この場で初めて公表している。まず, 6 月に実施される宇都宮市の校長会で報告し, その後各学校に公表しようと思っている。一般の方には, 毎年発行しているセンターの広報誌, 「所報」に掲載し, 多くの市民の方の目に触れるようにしていきたい。また, ホームページ上にも掲載して広報するなどの方法も検討中である。

会長 : 教育的効果の結果について, 本当に全ての項目について優位であったのか。

事務局 : 全ての項目について優位が認められた。

坂内委員 : (一般の) アンケートの要望, 意見, 毎回同じことが出ている。車両乗り入れ禁止の問題などは, もう少し利用者に禁止の目的を示せば意見が少なくなるのではないかと思う。利用者に趣旨を知っていただく案内をもう少し強くできればよいと思う。

会長 : 趣旨の説明はあるか。

事務局 : まず予約を受けた時点で, センター設立の趣旨を説明し, それをご理解いただいた時点で予約を受けている。しかし, 電話をかけてきた方と, 当日来た方が違うとなかなか伝わりづらいということもある。当日, 来所した方一人一人に話をさせていただいて, ご理解いただけるようにしたいと思う。

会長 : 総合的に満足という意見が多いので, 大きな問題ではないと思う。

芥川委員 : 資料 17 ページの 24 年度主催事業一覧について, 計画の募集人数に対して, 実際の参加

者数が多く良好に思うが、職員の対応は大丈夫なのか。抽選にしなかったのは、どのような考えからか。

- 事務局：主催側として、十分に参加者の安全確保ができること、活動を満足してもらえること、併せて職員の勤務も考慮して定員を設定しているが、応募が定員を超えた場合は、急遽、職員の配置、内容を再検討して、活動面について満足いただくこと、また安全面の確保が十分担保できることかを考慮して定員を超えて受け入れをした。
家族ふれあいキャンプについては、テントの関係もあるので、大きく定員を超えての受け入れは難しい。他の事業に関しては、柔軟に対応したいと考えて受け入れを行っている。
- 芥川委員：こちらの研修会で活動の指導の資格を取った方が、大学生、一般の方などたくさんいる。しかし、資格を取った方が実際に活躍する場があまりない。これだけの設備と主催事業があるので、登録制にしてボランティアで事業に参加してもらおうとよいのではないか。ボランティアの方にお手伝いいただくことで、職員に過度の負担にならずに、より多くの方に事業に参加していただくことができるのではないか。また、資格を取った方の活躍の場にもなる。
- 事務局：自然体験活動指導者ということで、研修を受けられた方には、特にエンジョイサタデーやオープンデー、フェスティバルで昨年度たくさんの方にご協力いただいた。私たち職員にも限りがあるので、そういった方々のお力をお借りしながら、ボランティアという形になってしまうが、快くお受けいただいて事業を進めているところである。今年度以降についてもボランティアの方をうまく活用していきたいと考えている。
- 橋本委員：資料 15 ページの一般利用のアンケートに関して、自由記述にいろいろな意見があるが、この中で今年度、改善、対応しているものについて伺いたい。
- 事務局：団体のマナーが悪いというものについては、指摘を受けた時点で、夜中でも職員が行って各団体の調整にあたっている。また、アリーナの床がすべりやすいということについては、休館日前を利用して職員でワックスを塗った。今後も継続的にやっていきたいと考えている。また、マットとシュラフが臭うということについては、全てのベットマット、シュラフの確認を行い、シュラフについては新規購入ができた。ベットマットについては、予算要求を出したが、なかなか一回でということでは難しいので、計画的に改善していきたいと思う。その他、施設関係についても、センター職員が自分たちで直せるところは直している。また、大規模改修ということになってしまうが、園内の階段など木の部分の傷みが激しくなっているところについては、これから順次計画的に修繕を進めていきたいと思う。
- 橋本委員：アンケートの結果に対して、このようにやっているということをもっとこちらでアピールしてもよいのではないかと思う。そうすると、自分の意見を取り入れてくれたということや、前向きに取り組んでいるということが利用者に分かる。
また、アリーナの床の件だが、学校の体育館を改修したときに、業者の方に「決して素人が油を塗るな」と言われた。予算をとっていただいて、業者にちゃんとやってもらって、どのようにすれば滑らなくなるのかということを書いて対応した方がいいのではないかと思う。
- 馬上委員：資料 13 ページのけがの数について、毎年このくらいあるのか。また、夏場に虫さされが多いのは分かるが、2月にとげが 22 件というのは、その時期に気をつけなければならない植物などがあるのか。
- 事務局：学校のための保健室利用になるが、毎年だいたいこれくらいの数値が出る。大きなけがについては昨年度は少し多かった。2月のとげの 22 という数については、植物ではなく、施設の木製部分でとげを刺してしまったものである。2月は、小学校の利用時期になり、手すり等をこすってしまうことによっておきるけがとなっている。そちらについても対応しており、今は、少なくなっている。
- 馬上委員：ニス等を塗って対応しているのか。
- 事務局：化粧板のようなものを上に貼って改修した。傷んでいる部分については全て崩して足場から作り直しをした。
- 会長：毎年のけがの推移のグラフがあると分かりやすい。
- 事務局：わかりました。
- 森山委員：ロッジの階段で転倒とあるが、どういう状況で転倒したのか。何か重いものを持っていたのか。
- 事務局：凍結による転倒である。凍ったところを朝方起きて通って転んでしまった。篠井町は市街地に比べて雪が多く、センターもかなり雪が積もる。一度雪や雨が降ってしまうと、ロッジの階段等が凍結してしまう。凍結が予想されるときには、学校にもお願いをして転倒防止のために使い古しの布製のシュラフを敷いてもらって対応している。このけが

- 森山委員： のときは、特に何かを持っていたというわけではないが、滑って転んでしまった。
ガールスカウトのキャンプのときにも、背中に荷物を背負うように指示しているが、体の前にかばんをぶらぶら掲げ、転倒してけがをしたということがあった。
- 入江委員： 1月も3月も凍結による転倒なのか。
- 事務局： 1月の唇裂傷のときは凍結によるものだが、3月については、単純に階段を踏み外してしまったことによる転倒である。大きな段差を踏み外し、階段を転げ落ちたというわけではなかったが、痛みが出てしまったため受診したらひびが入っていたということだった。
- 入江委員： 資料15ページのアンケートでも、ロッジB棟とC棟の間の階段の土が減って段差ができていたとあるが、階段があるということで、子どもたちや利用者は油断して使うと思う。雨が降って土が減って丸太のところだけでできてしまうと、下りのときに危ない。あずまやまでの階段も土が減って丸太が出ていた。どのように直すのか。
- 事務局： ロッジ、あずまやへの階段等は、雨が降る等して土が流れてしまう。テントサイト、野外炊飯場近辺もそのような形になっている。対応としては、一度土留めを外して、もう一度作り替えたり、それが難しい場合には、砂利を入れてその上から土を入れてできるだけ流失が少ないようにしたりして修繕している。
- 入江委員： 家や学校にある階段とは違って、自然の中にある階段なので、安全ではない。上り下りのときには気をつける必要があるということ子どもたちに伝えた方がいいのではないか。
- 会長： いろいろな意見が出た。今後に活かしていただければと思う。

(2) 協議事項

① 平成25年度事業計画について（ア 学校受入事業、イ 主催事業、ウ一般受入事業）

- 事務局： (資料にそって説明)
- 会長： 子どものもりフェスティバルの10月20日の開催日の見直しについて、いかがか。ジャパンカップは、市としてもバックアップしているのか。
- 山口巖蔵： 市が主催している。
- 村上委員： 地域的なからみはあるのか。
- 山口巖蔵： 特にはない。この日程について、私も最近知った。日程に関しては、市のイベントがこの時期たくさんあり、市内でもどれが一番効果的な日程のばらし方か検討しているところである。この日は、城趾公園祭りも同日日程で開催されるはずであり、限られたお客様を分散させてやるのがよいのか、日程を分散させることによってお客様を集めるのがよいのかという考え方もある。日程に関しては、この場でもむとというより、一度スポーツ振興課でお預かりしたい。意見をいただいた中で、日程の決定については、一任していただけたらと思う。
- 村上委員： 地域の意向も大事だと思うので、地域とぜひ協議されたいと思う。
- 会長： 冒険活動センターとしては、特に10月20日でないと困るという事情はないか。
- 事務局： 特にここにこだわっているというわけではない。センターとしては、第一に時期的に参加者の方に快適に過ごしていただけるだろうという理由で、10月20日に設定した。何年か前には、11月に開催をしていたこともあったが、天候によってはだいぶ気温も下がり、参加者が非常に寒い思いをしたということもあったようである。そのようなことも踏まえて10月20日に設定した。しかし、大きなイベントが重なっているのので、開催日の変更が必要であればと思い、協議事項にあげた。
- 相田委員： 10月は地域の運動会が多いと思う。確かに気候がいいかもしれないが、地域のイベントと重ならないような時期にして人を集めるのがいいのではないかと思う。いつとは言えないが、冒険活動センターでは、このころイベントをやっているということを周知できるようにしていくといいのではないか。
- 沼尾委員： 今年のジャパンカップは10月20日なのか。
- 山口巖蔵： 毎年、10月の第3週にやっている。世界のレースの割り振りの中で決められていることである。
- 会長： 子どものもりフェスティバルをこの時期にというのは、今年が初めてなのか。
- 事務局： 学校の受け入れ状況にもよるが、だいたいこのくらいの時期にということで、ここ2、3年は第2、第3週でやっている。
- 沼尾委員： 昨年は何日に行ったか。
- 事務局： 10月14日である。
- 沼尾委員： 昨年は、たくさんお客さんがきた。
- 会長： 今年も1週ずらして、13日や27日に行くことは可能か。
- 事務局： 変更は可能である。

会長 : 開催日はすでにどこかに広報しているのか。
事務局 : 主催事業一覧という形で、広報をしている。開催日変更の通知を出したいと思う。
会長 : ずらせるならずらすという方向で、市の方で検討していただくということでしょうか。
入江委員 : 12, 13, 14 日辺りの秋休みの時期はどうか。
事務局 : 宇都宮市外の学校の受け入れが入っている。
会長 : 13 日にするのは難しいと。ずらすのであれば、27 日という方向でスポーツ振興課に持ち帰ってもらって検討してもらおうということでしょうか。
事務局 : 1 週ずらすということで、できるだけ 11 月にかからないよう、10 月 27 日、日曜日になる形で検討したい。
会長 : 他の点についてご意見を。
相田委員 : 自然体験活動指導者養成研修会について 1 泊 2 日どのような内容で行うのか。また、主催事業の手伝いをしているということだったが、これだけ出れば活動できるのか。
事務局 : 基本的には、自然体験活動に関わる CONE と言われている自然体験活動推進協議会で指定された授業時数をこなすというもので、センターでは、インシァティブゲーム、野外炊飯、救命救急等の講義を受けてもらい、活動の支援にあたってもらっている。センター独自の資格というよりも自然体験推進協議会の方で発行している自然体験活動指導者の資格を取得してもらって講座となっている。
相田委員 : 1 泊 2 日でとれるのか。
事務局 : はい。1 泊 2 日でとれるように日程を組んでいるので、タイトになっている。夜の活動もある。
芥川委員 : 部外講師は来るのか。内部で研修できるのか。
事務局 : 内部で行っている。
芥川委員 : 別な施設で、野外活動の初級者の資格を 1 泊 2 日で取った。そのときには、CONE の上のクラスの資格を持った人が講師で来た。安全管理や具体的な指導例、屋外で活動するときの指導者側として注意しなくてはならないこと、施設関係者との安全に対する事前打合せ等について学んだ。
会長 : CONE とは何か。
事務局 : 自然体験活動推進協議会の略で、野外体験活動を進めていく上で必要なスキルや情報を提供している団体である。センターでは、所長がトレーナーの資格を持っているので、研修会を開いて有資格者を増やしていくことが可能になっている。
会長 : 他にどうか。昨年度より意見をいただいている他団体との共催が進められているが、意見があれば。
芥川委員 : PR について。資料にホームページのリニューアルとあったが、報道機関に対してのアタックを考えていたり、実績があったりするか。栃木テレビを観たり、ラジオを聴いたりしているが、ここが紹介されているのをあまり観たことがない。宇都宮市にとって自信を持って全国に発信していいくらいの設備であり、活動であると思う。全国版は難しいかもしれないが、少なくとも県内のラジオやテレビでの PR も考えたらどうか。
事務局 : 広報について、積極的にメディアを活用していこうという思いはある。昨年度については、教育効果の測定結果について下野新聞に取り上げていただいて、広く市民の方にご理解いただけた。県内のメディアに取り上げてもらえるよう積極的に動いているが、内容が多い時には後回しになってしまうようである。栃木放送やケーブルテレビで取り上げていただいている。また、昨年度末には、下野新聞の月刊紙アスポにセンターで働く女性職員が取材を受け、紙面三面くらいの大きな記事で、センターでの活動と併せて紹介していただいた。今後も積極的に活用していきたいと思う。
入江委員 : けがについて。今までの活動でどういうけがが多いか。今までの記録は残っているか。今までのけがの傾向がとってあれば、子どもたちに注意喚起ができるのではないか。
事務局 : 保健室利用の状況や今まで起きたけがについて、データが残っているので次回会議で傾向などについてご報告したいと思う。
入江委員 : 活動プログラムのチャレンジ料理は、小学校はやれないけれど中学校はやれるというものなのか。
事務局 : 中学校の活動である。
入江委員 : 中学校、全然やっていない。野外炊飯ばかり。炊飯はどこでもやらせてもらえるが、土に埋めて蒸すという原始的な料理は、なかなかやらせてくれるところがない。勧めたらいかがか。
所長 : 人によって料金が変わることを、学校側が嫌がる。野外炊飯はみな同じ料金でできる。
入江委員 : チャレンジ料理を学校全体で選ぶことはできないのか。
所長 : 全体で行うのは厳しい。
入江委員 : 選択活動の中に入る形か。

- 事務局 : はい。全体での実施は、フィールド的に厳しい。中学校は規模が大きいので、200 人を超える学校が、一斉にチャレンジ料理を実施するのは難しい。また、天候等の心配もある。紹介はしているところであり、先生方も体験をさせたいという思いはきっとお持ちだろうが、できるだけ全員に同じ体験をと考えると難しいようである。ただ、貴重な体験にはなると思うので、学校には、チャレンジ料理やソロキャンプなどを紹介していきたいと思う。
- 入江委員 : ソロキャンプもよい。一人で泊まることはなかなか体験できない。0 になっている活動で、よいものは、良い点を挙げて勧めた方がいいのではないかと。チャレンジ料理などもやりやすいように提案するとよいのではないかと。せっかくいい活動があるのに、やれないというのはもったいない。
- 森山委員 : 常設テントは何月まで使えるか。
- 事務局 : 学校は 11 月まで、一般は 10 月までである。19 ページにあるように中学校は 11 月まで計画されている。規模によっては、テントを使用することもある。ただし、季節的には気温が下がる場合もあるので、一般の方は 10 月までの利用となっている。
- 高田委員 : 中学校は、多いときは 200 名を超える 8 クラスということがあり、ソロテントを使った。使うまでは、子どもたちもかなり不安な様子だったが、担任裁量で、常設とはまた違って、センターにも協力してもらって飲み物を出してもらったりして、ずいぶん楽しんだということがあった。ただ、テントについては、子どもたちに聞いたりしても、正直、11 月は寒い。野外炊飯にしても、200 人を超えているときは一度に実施できないので、分けてやっている。
- 今日子どもたちと話す機会があったが、冒険活動教室が楽しかった、また行きたいと言っていた。子どもたちは本当に楽しんでやっている。
- また、学校サイドとしては、以前行っていた他の施設のように教員が活動を一人でやるとなると、子ども一人一人を見ることができない。このセンターでは、活動に職員の方が入ってくれるので、子どもたちをよく見られるというのが大変ありがたい。また、中学校が 3 泊 4 日から、2 泊 3 日になったということで、正直、教員の負担が一日減ったのはありがたい。特にお子さんの小さい教員の負担が減った。ただ、それよりも一番は、先生方が子どもたちとゆっくりコミュニケーションをとりながら、活動をできるのがありがたい。教育効果もあり、普段見られない子どもたちの姿を見られたり、先生と生徒が触れ合ったりすることもできる。予算等いろいろな問題もあると思うが、われわれ学校サイドとしては、ぜひ、今後もこのような形で、職員の方のご協力をいただきながらやっていく形を続けていってほしい。
- 村上委員 : リーダーバンクの登録者は、研修が終わった方だけなのか、それともそれ以外のいろいろな分野の方も含めてやっているのか。
- 事務局 : 自然体験活動指導者養成研修会を終了された方はもちろん登録できる。現役で働いているセンターの職員、またセンターでの仕事を経験した OB も同じ研修を受けており、有資格者である。センターでは、自然体験活動推進協議会の有資格者をリーダーとしてと位置づけている。登録しているリーダーは累積して 100 名くらいである。
- 会長 : リーダーのリストがあるのか。
- 事務局 : はい。こちらでリーダーに声をかけて、各団体の要望に合うように調整をしている。現実的に 100% 応えるのは難しいところであるが、極力各団体のリクエストに応えられるように紹介している。
- 会長 : リーダーをお願いするときには、料金はどれくらいかかるのか。
- 事務局 : 半日で、交通費、昼食代でほしい 2,500 円を目安にということで話をしている。基準は、宇都宮駅からここまでのバス代と昼食代 500 円、保険料である。目安として話をしているが、実際には各団体とリーダーとの協議の中で決まるという形になる。0 円ということもあれば、5,000 円ということもある。私たちはあくまで人材の斡旋という形になる。
- 会長 : 基本的にはボランティアということか。
- 事務局 : ボランティアである。
- 相田委員 : 18 ページにある一般利用者のための新規活動の開発について、何か新しいものができているか。
- 事務局 : 今イメージしているものをなんとか来年度に形にしたい。学校利用でも提供できるかも知れないが、篠井の町をゆっくり散策してもらって新たな発見をしてもうもの考えている。現在はウォークラリーという形で実施しているが、そうではなく、篠井の名産地を回れるよう工夫をした活動を提供していきたいと思っている。
- 園内での活動も考えられるとよいと思うが、一般利用者の方には基本的には職員がついて活動の仕方をレクチャーしたりすることはないので、各団体の代表者がリーダーとし

- て、できるだけ負担のないようなものを開発できたらと思っている。
- 沼尾委員： 地元で今年、県のコミュニティーづくりの人材育成研修会の地域指定を受けており、県内から研修生が篠井に来て、地域を紹介することになっている。その中で、篠井には非常に素晴らしい市の教育施設があるということで、ここに研修生を呼んで話を聞かせてもらいたいと思っている。1月の予定である。その会でここを紹介することで、多少お役に立てるのではないかと思う。
- 事務局： ありがとうございます。
- 会長： 以上で協議を終わりにしたいと思うがよろしいか。

5 閉 会